

テーマ	中間試験（I）対策：3 級受験者用
-----	-------------------

1. 次の取引について仕訳しなさい。（日商 3 級過去問）

- (1) 得意先山口商店に対する売掛金 ¥300,000 を回収し、そのうち ¥200,000 は山口商店の得意先である宇部商店が振り出した約束手形で受け取り、残額は当座預金口座に振り込まれた。
- (2) 得意先岩国商店に商品 ¥500,000 を売り上げた。代金のうち ¥200,000 はすでに受け取っていた手付金と相殺し、残額は掛けとした。
- (3) 営業用の自動車に係る自動車税 ¥30,000 と事業主の所得税 ¥80,000 を郵便局で現金で納付した。
- (4) 従業員が立て替えていた電車賃 ¥600 を現金で支払っていたが、未記帳であることが判明した。なお、昨日、週 1 回の現金実査を行い、現金過不足勘定の借方に ¥800 の記入を行っている、雑損または雑益への振り替えは、決算日に行うこととしている。
- (5) 販売用の実務机 @¥300,000 を 4 台購入し、代金は翌月に支払うこととした。なお、引取運賃 ¥8,000 は現金で支払った。
- (6) 仕入先徳島商店から商品 ¥640,000 を仕入れ、代金のうち ¥300,000 については鳥取商店振出し、石川商店受取りの約束手形を裏書譲渡し、¥250,000 についてはかねてより売掛金のある得意先富山商店を名宛人、徳島商店を受取人とする為替手形（引受済）を振り出して支払い、残額は掛けとした。
- (7) すでに普通預金口座を開設している東西銀行品川支店に、新たに当座預金口座を開設し、普通預金から ¥200,000 を引き出して、当座預金に預け入れた。同時に、借越限度額を ¥500,000 とする当座借越契約も結んだ。なお、当座預金からの借越については、当座借越勘定を用いることとした。
- (8) 得意先新潟商店から商品 ¥300,000 の注文を受け、本日同商店から当座預金口座に ¥40,000 の振込みがあった。この振込額のうち、¥30,000 については注文品の内金であるが、残額については原因不明のため、現在同店に対して問い合わせ中である。
- (9) 小口現金係から、次のように支払いの報告を受けたため、ただちに小切手を振り出して資金を補給した。なお、当店は定額資金前渡制度（インプレスト・システム）により、小口現金係から毎週金曜日に一週間の支払い報告を受け、これにもとづいて資金を補給している。
- | | | |
|------------|-------------|---------|
| 通信費 ¥6,700 | 消耗品費 ¥4,320 | 雑費 ¥780 |
|------------|-------------|---------|
- (10) かねて仕入先愛媛商店から商品 ¥500,000 を仕入れ、代金のうち ¥400,000 については同店振出し、当店あての為替手形を呈示されたため、それを引き受け、残額については全額掛けとして処理していたが、本日、本商品注文時に ¥50,000 を内金として支払っていたことが判明したため、訂正を行うこととした。なお、この取引から生じた買掛金について、決済は行われていない。
- (11) 仕入先山口商店から ¥80,000 の為替手形の引受けを求められたので、これに記名押印して同店に渡した。なお、当店はこの仕入先に対して、¥200,000 の商品代金の未払いがある。
- (12) 従業員 10 名が負担すべき当月分の生命保険料 ¥350,000 を小切手を振り出して支払った。当月末にこの生命保険料は、従業員の給料（総額 ¥3,800,000）から差し引くこととした。
- (13) 近くの電器店からオフィス機器 ¥300,000 と事務用消耗品 ¥35,000 を購入した。代金のうち ¥135,000 は、小切手を振り出して支払い、残額は翌月末からの 5 回払いとした。
- (14) 先週掛けて仕入れた商品 60 個（@¥20,000）のうち、本日、3 分の 1 を戻し、代金は掛代金から控除した。
- (15) 小口現金係から、旅費交通費 ¥30,000、消耗品費 ¥89,000 および雑費 ¥13,000 の小口現金の費用について報告を受け、同額のの小切手を振り出して補給した。なお、当店は、小口現金について定額資金前渡制度を採用している。
- (16) 商品券の精算をするため、当店が保有している他店商品券 ¥120,000 と、他店の保有している当店発行の商品券 ¥150,000 とを交換し、差額については現金で決済した。

テーマ	中間試験（I）対策：3級受験者用
-----	------------------

- (17) 店主の生命保険料 ¥65,000 と店舗兼住居用の建物の火災保険料 ¥180,000 について、当座預金口座より引き落とされた旨の通知が取引銀行からあった。ただし、火災保険料のうち 30%分は店主個人住居部分に対してである。
- (18) かねて福岡商店より掛けて仕入れ、神奈川商店に対して掛けて販売していた商品 55 ケース（取得原価 @¥9,500、売価 @¥12,000）のうち、5 ケースに汚損があったため、1 ケースあたり ¥1,200 の値引を承諾し、8 ケースについては品違いのため返品されてきた。
- (19) 今月の給料支給総額 ¥2,750,000 から、従業員に対する貸付金の返済額 ¥500,000 およびその利息 ¥7,500 を差し引き、手取額を当座預金口座から振り込んだ。
- (20) 長崎商店から商品 ¥240,000 を仕入れ、代金のうち ¥100,000 については、兵庫商店振出し、富山商店あて（引受済）の為替手形を裏書譲渡し、残額については小切手を振り出して支払った。なお、当座預金残高は ¥80,000 であったが、取引銀行と当座借越契約（借越限度 ¥500,000）を結んである。
- (21) 現金の実際残高が帳簿残高より多かったため、現金過不足勘定で処理されていた ¥8,500 のうち、¥7,000 は受取手数料の記入漏れであることが決算日にいたり判明した。残額については不明のため、適当な科目に振り替えることにした。
- (22) 商品 ¥65,000 を掛けて売り渡した取引を、借方、貸方とも誤って ¥56,000 と記入されていたので、正しい金額に修正をした。
- (23) 商品 ¥100,000 を仕入れ、代金のうち ¥30,000 はすでに支払ってある手付金で充当し、残額は掛けとした。
- (24) 不要となった備品（取得原価 ¥200,000、減価償却累計額 ¥90,000、間接法で記帳）を期首に処分し、売却代金 ¥30,000 は後日に受け取ることにした。
- (25) 従業員の出張にさいし、旅費の概算額 ¥50,000 を現金で手渡した。
- (26) 栃木商店へ商品 ¥500,000 を売り渡し、代金のうち ¥300,000 については、かねて本店が群馬商店を受取人、茨城商店を名宛人として振り出した為替手形を裏書譲渡され、残額については月末に受け取ることにした。なお、栃木商店負担の発送運賃 ¥5,000 については小切手を振り出して立替払いした。
- (27) 営業用の建物を ¥4,500,000 で購入し、代金は当月末に支払うこととした。なお、仲介手数料 ¥120,000 については、小切手を振り出して支払った。
- (28) 前月末に得意先より ¥200,000 が当座預金に振り込まれ、その内容が不明であったため仮受金として処理していたが、本日得意先から連絡が入り、その内訳が売掛金の回収額 ¥150,000 と注文を受けた商品 ¥500,000 に対する内金 ¥50,000 であることが判明した。
- (29) 前期に生じた売掛金 ¥250,000 が得意先の倒産により回収できなくなったため、貸倒れとして処理する。なお、貸倒引当金の残高は ¥210,000 である。
- (30) 当期中に売買目的で取得した札幌通信株式会社株式 5,000 株（1 株当たり購入単価：¥960、その他に購入時に証券会社へ支払った手数料は総額で ¥25,000）のうち、3,000 株を 1 株につき ¥963 で売却し、代金は月末に受け取ることにした。
- (31) 決算にあたり、現金の手許有高を調べたところ、帳簿残高は ¥280,000 であるのに対して、実際有高は ¥275,000 であった。この現金不足額のうち ¥3,300 は、従業員個人が負担すべき交通費を店の現金で肩代わりして支払った取引が未記帳であったためであると判明したが、残りの現金不足額の原因は不明である。
- (32) 商品 ¥120,000 を仕入れ、代金のうち ¥100,000 については、売掛金のある得意先を名宛人とする為替手形を振り出し、得意先の引受を得て渡し、残額は掛けとした。
- (33) 前期に貸倒れとして処理した売掛金 ¥80,000 のうち、¥60,000 が回収され、当座預金の口座に振り込まれた。なお、貸倒引当金勘定の残高は ¥40,000 である。

テーマ	中間試験（I）対策：3級受験者用
-----	------------------

- (34) 給料日に、従業員に対する給料から所得税の源泉徴収額 ¥20,000 を差し引き、手取金 ¥180,000 を当座預金の口座から振り替えて従業員に支払った。
- (35) 水道光熱費 ¥50,000 と事業主の所得税 ¥210,000 を当座預金の口座から振り替えて支払った。なお、水道光熱費のうち ¥20,000 は、事業主個人の家計が負担すべき金額である。
- (36) 当期首に売買目的のため 1 株 ¥650 で購入した東北産業株式会社の株式 5,000 株のうち、3,000 株を 1 株 ¥610 で売却し、代金は当座預金口座に振り込まれた。
- (37) 備品 ¥200,000 を柏商店より購入し、代金のうち ¥40,000 は小切手を振り出して支払い、残額については毎月末の 4 回分割払いとした。
- (38) 前期の決算整理にともない計上した未収利息 ¥18,000 につき、当期首に再振替仕訳を行った。
- (39) 事務用文房具を浦和商店より購入し、代金 ¥50,000 は現金で支払った。なお、当店では文房具については決算時に棚卸を行い、当期の使用額を費用に振り替える方法をとっている。
- (40) 商品 ¥50,000 を売り上げ、代金のうち ¥30,000 は当店発行の商品券で、残額は現金で受け取った。
- (41) 以前に売上代金の一部として受け取っていた得意先振り出しの約束手形 ¥15,000 を取引銀行で割引き、割引料 ¥300 を差し引かれた手取金は当座預金とした。
- (42) 売買を目的として、他社が発行する株式 1,000 株を 1 株当たり ¥60 で買入れ、代金は証券会社に対する売買手数料 ¥1,000 とともに小切手を振り出して支払った。
- (43) 約束手形を振り出して ¥200,000 を借り入れ、その金額が当座預金の口座に振り込まれた。
- (44) 従業員が出張から戻ったので、旅費の精算を行い、残金 ¥13,000 を現金で受け取り、直ちに当座預金に預け入れた。なお、従業員に対しては、出張にあたり、旅費の概算額 ¥80,000 を手渡していた。
- (45) 以前に購入していた土地（購入価格 ¥520,000、購入手数料 ¥12,000）を ¥550,000 で売却し、代金は後日受け取ることとした。
- (46) 関東商店から商品 ¥80,000 を仕入れ、代金のうち ¥50,000 は、かねて受け取っていた関西商店振出しの約束手形を裏書譲渡し、残金は掛けとした。
- (47) 商品 ¥60,000 を売り出し、代金のうち ¥40,000 は、当店と連盟している北海道商店の商品券で受け取り、残額は当店発行の商品券で受け取った。
- (48) 期首に備品（取得原価 ¥300,000、減価償却累計額 ¥162,000、間接法で記帳）を ¥130,000 で売却し、代金は後日受け取ることとした。
- (49) 九州商店に対して商品 ¥30,000 を注文し、手付金として ¥10,000 の小切手を振り出して渡した。得意先が倒産し、前期から繰り越された売掛金 ¥40,000 が回収できなくなったので、貸倒れの処理を行う。なお、貸倒引当金の残額は ¥30,000 である。

テーマ	中間試験（I）対策：3級受験者用
-----	------------------

2. 次の取引に基づいて、答案用紙の合計試算表を完成しなさい。なお、平成X9年10月26日現在の合計試算表は答案用紙の10月26日現在欄に示す通りである。答案用紙には必要な勘定科目を追加すること。また、売上と仕入はすべて掛で行っている。

〔10月27日から10月31日までの取引〕

27日 仕入：八尾商店¥4,000 売上：花岡商店¥1,200

阪南商店へ買掛金¥2,400の支払いのため、同店受け取り、瓢箪山商店宛（引受済み）の為替手形を振り出した。楽音寺商店より売掛金¥6,800が当座預金口座に振り込まれた。

売買目的として北本町商工（株）の株式を¥3,600で購入し、代金は購入手数料¥100を含めて小切手で支払った。貸付金のうち¥2,000を、利息¥100を含めて小切手で回収し、ただちに当座預金に預け入れた。

28日 仕入：阪南商店¥3,000 売上：楽音寺商店¥4,500

瓢箪山商店の売掛金¥3,000を同店振出、当店宛の約束手形で回収した。

服部川商店の買掛金¥2,000を、小切手を振り出して支払った。

花岡商店へ売上げた商品について¥100の値引をした（掛け代金と相殺）

取得価額¥3,000、既償却額¥700の備品を¥1,500で売却し、代金は小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。

29日 仕入：服部川商店¥3,600 売上：瓢箪山商店¥6,700

八尾商店の買掛金¥1,000を同店宛の約束手形を振り出して支払った。

阪南商店の買掛金¥2,000を支払うため、瓢箪山商店より裏書譲渡されていた山本商店振出、瓢箪山商店宛の約束手形を裏書譲渡した。

取立を依頼していた花岡商店振出、当店宛の約束手形¥1,200について、取立が済み、当座預金に預け入れた旨の通知を受けた。

借入金のうち¥4,000を、利息¥200を含めて小切手を振り出して返済した。

30日 仕入：阪南商店¥3,000、八尾商店¥2,000

売上：花岡商店¥1,200、瓢箪山商店¥1,500

服部川商店より仕入れた商品のうち¥600を返品した（掛け代金と相殺）。

今月分の家賃¥2,400を、小切手を振り出して支払った。

八尾商店宛に振り出した約束手形¥5,000について、支払期日に当座預金口座から引き落とされた。

給料総額¥6,600のうち所得税の源泉徴収分¥800を差し引き、手取金を、小切手を振り出して支払った。

31日 仕入先阪南商店より同店振出、経法商店受取、当店宛の為替手形¥1,700の支払いの依頼を引き受けた。

瓢箪山商店に対する売掛金の回収として、当店振出、八尾商店宛の約束手形¥1,000を裏書譲渡された。

瓢箪山商店振出、当店宛の約束手形¥3,000を取引銀行で割り引き、手取金¥2,900を当座預金とした。

楽音寺商店に対する売掛金¥1,000の回収として、以前本店が振り出した小切手で受け取った。

小口現金係より次のような当月分の支払報告を受け、ただちに小切手を振り出して補給した。なお、仕訳にあたっては小口現金勘定を用いない方法による。

切手・ハガキ代：¥300、コピー用紙代：¥500、バス回数券代：¥200

テーマ	中間試験（I）対策：3級受験者用
-----	------------------

合計試算表
平成X9年10月31日

借方合計		勘定科目	貸方合計	
10/31現在	10/26現在		10/26現在	10/31現在
	1,000	小口現金		
	144,380	当座預金	80,280	
	31,900	受取手形	24,500	
	120,240	売掛金	104,480	
	5,080	売買目的有価証券		
	17,000	繰越商品		
	4,000	貸付金		
	12,500	備品		
	23,400	支払手形	33,700	
	84,400	買掛金	91,400	
		預り金	700	
		借入金	20,000	
		貸倒引当金	1,800	
		減価償却累計額	1,080	
		資本金	80,000	
	3,000	売上	120,240	
		受取利息	300	
	91,400	仕入	2,540	
	17,480	給料		
	2,400	支払家賃		
	840	消耗品費		
	760	旅費交通費		
	460	通信費		
	400	支払手数料		
	380	支払利息		
		()		
		()		
	561,020		561,020	

テーマ	中間試験（I）対策：3 級受験者用
-----	-------------------

3. 次の期末整理事項によって解答欄の精算表を作成しなさい。ただし、会計期間は平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日である。

<決算整理事項>

1. 期末商品棚卸高は¥32,500 であった。なお、売上原価は「仕入」の行で計算すること。
2. 仮払金は、従業員の出張に際して旅費交通費の概算額を支払ったものである。決算日に従業員が出張から帰り、旅費交通費¥5,200 との報告を受け、従業員が立て替えていた不足額は現金で支払った。
3. 平成 22 年 3 月 31 日に、顧客から商品の注文を受け、手付金（内金）¥9,600 が当座預金に振り込まれていたが、その処理がなされていなかった。
4. 受取手形および売掛金の期末残高に対して、貸倒実績率法により 2% の貸倒引当金を設定する（差額補充法）。
5. 売買目的有価証券として、愛知商店(株)の株式 25 株（取得原価@¥724）を保有している。決算に際して、時価に評価替えを行う。愛知商店(株)の株式の時価は@¥728 であった。
6. 建物および備品について、定額法により減価償却を行う（記帳方法は間接法による）。残存価額は取得原価の 10% とし、また耐用年数は建物が 24 年、備品が 6 年とする。なお、備品は平成 21 年 12 月 1 日に購入したものであり、その減価償却費は月割り計算によって計上する。
7. 家賃は、平成 22 年 2 月 1 日に向こう 6 か月分を一括して受け取ったものであり、未経過分は繰り延べる。
8. 借入金の利息につき、未払分を見越し計上する。借入れの条件は、利率が年 4%、利払い日が各年 6 月末日、返済期日が平成 22 年 6 月 30 日である。
9. 消耗品の未消費高¥1,400 を計上する。

テーマ 中間試験 (I) 対策：3 級受験者用

勘定科目	残高試算表		修正 (整理) 記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	19,950							
当座預金	44,500							
受取手形	40,000							
売掛金	35,000							
仮払金	5,000							
売買目的有価証券	18,100							
繰越商品	42,000							
建物	40,000							
備品	10,000							
土地	25,000							
支払手形		33,000						
買掛金		35,500						
貸倒引当金		450						
建物減価償却累計額		7,500						
借入金		50,000						
資本金		100,000						
売上		244,000						
受取家賃		6,000						
受取利息		300						
仕入	149,000							
給料	26,000							
旅費交通費	12,000							
消耗品費	9,700							
支払利息	500							
	476,750	476,750						
()								
貸倒引当金繰入								
有価証券評価()								
減価償却費								
備品減価償却累計額								
() 家賃								
() 利息								
()								
当期純()								